

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成30年6月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】輸送機械を中心に持ち直しの動きが継続

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数は、約3年ぶりの高水準となった。中でも、輸送機械や化学工業等が牽引し、各企業からも好調を示すヒアリングが多く聞かれている。しかし、原料価格の高騰や電力費、運搬費等の経費増加による収益圧迫や、深刻な人手不足問題により、利益創出機会を逸している企業も多い。

【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、消費の縮小に加え、慢性的な人手不足により全体的に厳しい状況が継続しているが、各産業において販路拡大に向けた動きに活性化が見られる。

【設備投資】業績好調な企業を中心に、底堅く推移している

○設備投資は、国内金属工作機械受注額が堅調に推移する中、ロボットやI o Tの導入による合理化・省力化に加え、工場新設等増産目的の投資も増えつつある一方で、先行きの不安定な状況により、新規投資に慎重な企業も見られる。

【個人消費】全体的に緩やかな回復に留まっている

○個人消費は、引き続きドラッグストアが牽引するも、小売店販売額は前年同月比で約半年ぶりの減少となった。また、現金給与総額や実質賃金も下降の兆しを見せており、落ち着いた推移となっている。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回った

○観光は、前年と比較し、天候に恵まれなかったうえ、日の並びの関係で休日の日数が1日少なかったため、全体として観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回った。

【資金繰り】良好な資金繰り環境の一方、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、金融機関貸出残高は引き続き増加傾向にあり、業績好調な企業にとっては資金繰りに問題なく、借入環境にも変化は見られない。一方で、小規模企業では収益圧迫等を背景に、資金繰りは依然として厳しい状況にある。

【雇用】雇用情勢の改善とともに、人手不足感の拡大が継続している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする中、売り手市場による大手志向の求職者も増加しており、求人と求職のミスマッチが見られ、県内中小企業にとっては、人材確保の厳しさから人手不足が慢性化している。